

行基と西芳寺

行基（668～749年）は高名な仏僧であり、約1300年前に聖武天皇（701～756年）の勅命を受けて建てられた49の寺院のうちのひとつとして西芳寺を創建した。西芳寺は法相宗の寺院である。

行基は、6世紀の摂政であり外交官でもあった聖徳太子の邸宅があったとされる場所に西芳寺を建立した。聖徳太子は、行基と同様に、日本における仏教の普及に重要な役割を果たした。行基は、一説によると朝鮮半島からの渡来人の子孫であるとされ、法に縛られず、朝廷が定めた範囲を超えて仏教の経典を流布する活動を行い、病人や貧者を助けたことでも知られている。実際、行基が建立を手助けした寺院や尼寺は、貧者のための病院としても機能していた。

行基は他にも数多くの社会的・民衆的な福祉活動を行った。特に橋や堤防の建設を支援した。ある記録によると、行基のもとには数千人の信者が集まり、その人気の高さから親しみを込めて「行基菩薩」と呼ばれるようになった。菩薩とは、悟りの道の途上にありながら、現世にとどまり、人々を助けることを選んだ存在のことである。